

マタイ福音書の概要

- ・マルコを利用（酷似した筋立て）
- ・系図、誕生物語、山上の説教、エクレシア論、復活顕現物語など
- ・マタイ福音書の構成（配布プリント）

（1）ダビデの子

マルコ 1:1 「神の子イエス・キリストの福音の初め」

マタイ 1:1 「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図」

アブラハム：ユダヤ民族の父

ダビデ：ユダヤ民族の王

ダビデの末裔から救い主（メシア＝キリスト）が出現するという待望論

系図による信用証明

- ① 3つの区分：アブラハム～ダビデ、ダビデ～バビロン捕囚、バビロン捕囚～イエス
- ② なぜ14代？
神聖な数、完全・秩序の数である7の倍
ヘブライ文字（ダビデ） d v d 4+6+4=14
- ③ 4人の女性：タマル、ラハブ、ルツ、ウリヤの妻（バト・シェバ）
☞外国人、例外的な婚姻・懐妊
- ④ 法的つながり（血縁に代わるもの）：父権の行使（父による認知）

（2）新しいモーセ

a. イエスの物語

- ・旧約預言の成就（1:23； 2:6, 15, 18, 23； 4:15-16； 8:17； 12:18-21； 13:35； 21:5）
… 旧約引用の導入句（1:22 他）
- ・モーセの物語（出エジプト1～20章）との類似
ヘロデ王 = ファラオ
ヨルダン川 = 紅海
40日間 = 40年
山上の説教 = シナイ山の律法

b. 五つの教え

- ① 山上の説教（5～7章）
- ② 12弟子派遣説教（10章）
- ③ 御言葉を聞く者と「天の国」（13章）
- ④ エクレシア（教会）の運営（18章）
- ⑤ 終末についての教え（24～25章）

// モーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）

☆キリスト者の手引書・ガイダンス（7:24-28）

c. 新しい教え (6つの反対命題) (5:21-48)

ユダヤ教の教え (モーセ律法) 古い律法

↓ 「しかし、わたしは言っておく」

イエスの斬新かつ徹底した教え 新しい律法

①殺人、②姦淫、③離婚、④誓い、⑤復讐、⑥敵

(参考) 反対命題の解釈

- ・律法の趣旨を徹底化
- ・形骸化を抑止：考え方・感情も対象 (すべての次元での罪)
- ・家父長制社会における権力乱用を抑制 (離婚の禁止)
- ・無抵抗の抵抗 (非暴力の抵抗)

(3) 律法の完成者

- ・ 5:17-20 律法の完成
- ・ 5:21-48 反対命題 (ユダヤ教の教えを超える完成度の高さ) 完全な神を目標として (5:48)
- ・ 6:1-18 重要な宗教的行ない
 - ①施し (他者との関係)
 - ②祈り (神との関係)
 - ③断食 (自己との関係)
- ・ 23:2-3 律法遵守の勧め
- ・ 23:23 「十分の一の献げ物」
- ・ 24:20 安息日遵守 (参照、使 1:12)
- ・ ラディカルなイエス像を緩和
 - 例 マルコ 7:1-23 とマタイ 15:1-20 の比較
 - マルコ 7:15, 19c (ユダヤ教の食物規定の無効) の緩和・削除 (マタイ 15:16-17)

(4) 「愛の掟」の実践者

- ・ 9:9-13 罪人との食卓
- ・ 12:1-8 安息日論争
 - ホセア書 6:6 「わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない」

マタイの理解

- イエス ⇒ 律法の本質 (愛、他人への配慮)
- ファリサイ派 ⇒ 儀式的、祭儀の規定を重視

(5) ユダヤ教指導者に対する批判

- ・ 6:1-18 偽善的宗教行為
- ・ 21:28-32 「二人の息子」のたとえ (マタイ特殊資料 M)
 - 父=神、弟=ユダヤ教指導者、兄=徴税人、娼婦たち ← 「神の国」に先に入る
- ・ 21:33-44 「ぶどう園と農夫」 (マルコ 12:1-12)

☆21:43 「ふさわしい実を結ぶ民族」 (マタイの付加)



キリスト信仰者のグループ (第三の民族)

・ 23:13-36 偽善者 (ファリサイ派と律法学者) に対する 7つの悲嘆

「不幸である (οὐαί ウーアイ)」 ☞呪詛ではなく、悲嘆・悲痛の間投詞

理由: 妨害者、改悪者、詭弁者、祭儀的律法のみ、形式主義・虚栄心、迫害者

(参考) 玉川直重『新約聖書ギリシア語独習』改訂・新版 (キリスト新聞社、2002 年)

(6) 冤罪者 (無実の罪)

マルコ 15:6-15 とマタイ 27:15-26 の比較

イエスの無実



ユダヤ当局、ユダヤ民族の責任 (有罪)

27:15-18 ピラトの好意

27:19 ピラトの妻の助言 (マタイのみ)

27:20 群衆を扇動

27:22-23 群衆の反応

27:24-25 ユダヤ民族の責任 (マタイのみ)

☆聖書における反ユダヤ主義?

ユダヤ教に対する批判 (マタイ福音書など)

特定の歴史的文脈における批判

⇒同胞に対する「究極的な関心」に基づいた批判・告発・弾劾であって

断じてその全否定ではない!

(参照) エウセビオス (秦^{はた}剛平^{ごうへい}訳) 『教会史』上「訳者はしがき」8 頁)



正典化 (4 世紀末) =キリスト教の正典としての文書

普遍化 (反ユダヤ主義の正当化に加担)